

令和4年度大船渡市教育委員会の事務の執行状況等の点検・評価表

施策1 学校教育の充実

<凡例>

進捗度	進捗度評価
A	十分に達成できている (概ね9割以上)
B	ほぼ達成できている (概ね7割から9割未満)
C	あまり達成できていない (概ね5割から7割未満)
D	ほとんど達成できていない (5割未満)
下線	教育委員会から市長へ権限委譲した事務   目標値   令和3年度に設定

今後の方向性	
○	現状維持
●	改革改善

基本事業1 確かな学力の育成

基本事業名	対象	意図	成果指標				進捗度とその理由等	
			項目	単位	R3実績	R4実績		R7目標
1-1 確かな学力の育成	児童生徒	基礎・基本及び活用に関する学力が身についている。	標準学力テスト全国偏差値の全国平均比率 (数研式標準学力検査)					<b>A</b> 標準学力テストの全国偏差値は、小学校5年国語は全国平均(50.0)をやや上回っており、そのほかは平均をやや下回っているが、目標に対する達成率は9割を超えている。 標準学力テストの結果の分析を事後指導に活かしながら、ICTを効果的に活用し、個の学力に応じた学習指導と授業改善を行い、学力の向上を図る。
①小学校5年国語	①%	① 50.4	① 50.3	① 54.0				
②小学校5年算数	②%	② 49.0	② 49.6	② 53.0				
③中学校2年国語	③%	③ 50.6	③ 48.3	③ 52.0				
④中学校2年数学	④%	④ 48.6	④ 48.8	④ 51.0				

事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標				進捗度とその理由	今後の方向性等	
				項目	単位	R3実績	R4実績			R7目標
1-1-1 外国青年招致事業	指導を受けた児童生徒	異文化や本物の英語に触れることができる。	来日した青年を招致して、学校と連携し、小・中学校の英語指導に活用する。児童生徒や市民との交流を通じ、国際理解を推進する。  ※R4 外国語指導助手継続4人(内2人は年度途中で帰国)新たに1人招致	①「外国語の授業が好き」の割合(小学5年生)  ②「英語の授業が好き」の割合(中学2年生)	①%  ②%	① 65  ② 51	① 80  ② 58	① 82  ② 72	<b>B</b> 児童生徒は、外国青年との交流や授業を通して、多様な文化に触れるとともに、ネイティブな表現を学ぶなど外国語によるコミュニケーション活動を積極的に行っている。	● 小学校外国語科及び外国語活動の教科化により、さらに外国語指導助手の人的・質的向上を図る。
1-1-2 生徒指導研究事業	市内小中学校の生徒指導主事等	児童生徒の自己指導能力を育むための援助の在り方について学んでもらう。問題行動発生時の適切な指導方法を学んでもらう。	各小中学校の生徒指導研究委員が、生徒指導上の諸問題の未然防止や適切な対応をするため、事例研究・先進的な取組などについて研修を深め、実践力を高める。 ※R4は1回、12月に開催	適切な指導方法を学べたと答えた主事数	人	15	15	15	<b>A</b> 生徒指導主事を対象に、生徒指導の校内体制の構築に関する講義、情報交換を実施し、児童生徒及び自校教員への指導力向上に努めている。	○ 本事業は教員の生徒指導に係るスキルアップにつながるものであり、今後も有意義な研修となるよう、努めていく。
1-1-3 特別支援教育支援員配置事業	特別な教育的支援を必要とする児童生徒	児童生徒の学習適応状況に応じたきめ細やかな指導を受けることができる。	特別な教育的支援等を必要としている児童生徒に、学校における日常生活動作の介助や学習活動上のサポートを行う特別支援教育支援員を配置する。  ※R4 15校に19人配置	支援員の有効性を実感している学校数	校	14	15	15	<b>A</b> 支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあるが、個々の状況に応じた丁寧な支援により、生き生きとした学校生活を送っている。	● 学校の要望、児童生徒の実態を十分に把握した上で、必要に応じて配置増員を進める。

基本事業2 豊かな心の育成

基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	R3実績	R4実績	R7目標	
1-2 豊かな心の育成	児童生徒	命を大切にし、他人を思いやる心豊かな人間性を育む。	①自己肯定感をもつ児童の割合(全国学力・学習状況調査)	①%	① 73.8	① 84.1	① 85.0	<b>A</b> 自己肯定感を持つ生徒の割合は、全国平均より、やや下回っているが、他の成果指標の項目については、スクールカウンセラーの拡充や教育活動の充実により全国平均を上回っている。 児童生徒の心の状況の把握と適切な支援を図るため、引き続き、情操教育の推進と、スクールカウンセラーや各相談員の適切な配置に取り組む。
			②自己肯定感をもつ生徒の割合(同上)	②%	② 74.5	② 75.6	② 80.0	
			③人が困っているときは、進んで助けようと思う児童の割合(県学力・学習状況調査)	③%	③ 93.0	③ 97.0	③ 98.0	
			④人が困っているときは、進んで助けようと思う生徒の割合(同上)	④%	④ 95.0	④ 97.0	④ 98.0	



事務事業名	対象	意図	事業内容	¥					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	R3実績	R4実績	R7目標		
1-2-1 教育相談員配置事業	教育相談員	保護者や児童生徒の心のケアを行い、問題行動等の原因を取り除く。	学校と家庭との連携を図りながら、不登校や問題行動のある児童生徒に対し、専門的な立場から指導、助言する。	①(当該事業による)不登校改善率	①%	① 60	① 33	① 60	<b>B</b> 不登校児童生徒に対し、集団生活に適応することができるよう、相談業務、学習指導、運動、体験活動を実施している。また、在籍校との連携にも努めている。	<b>●</b> 不登校の原因が複雑化し、問題解決が難しくなっている。児童生徒、保護者や学校に対して、有効かつ適切に対応できるよう、教育相談員の研修機会を増やし、スキルアップを図る。
				②利用者数(実数)	②人	② 5	② 9	② 5		
1-2-2 心の教室相談員配置事業	心の教室相談員	問題や悩みに対して適切な指導・助言をする。	中学校全校に「心の教室相談員」を配置し、学校をはじめ、日常生活を送るうえで中学生が抱える心の悩みに適切に対処する。市内中学校4校に配置(一中のみ2人)週2～3日 1日4時間	①(当該事業による)不登校生の人数	人	14	30	10	<b>B</b> 生徒の悩みや相談に直接対応し、不登校や問題行動の予防に努めているが、不登校生の人数は、前年度に比較し増加している。	<b>●</b> 各校の実態に応じた活用がなされている。今後も人材確保に努める。
				②利用者数(実数)	人	9	16	9		
1-2-3 緊急スクールカウンセラー等派遣事業	スクールソーシャルワーカー	学校生活や家庭生活における不安の解消を図る。	必要に応じてスクールソーシャルワーカーの派遣を行う。	(当該事業による)不登校改善児童生徒数	人	1	5	5	<b>A</b> 社会福祉等の専門的な知識、技術を用いて関係機関と連携した相談業務を行い、学校及び家庭における児童生徒の心のケアや環境改善に努めている。	<b>○</b> 多様化する支援ニーズに対応しながら、児童生徒の心のケアを行うため、今後もスクールソーシャルワーカーの継続的な確保に努める。

基本事業3 健やかな体の育成

基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	R3実績	R4実績	R7目標	
1-3 健やかな体の育成	児童生徒	健康でたくましく成長する。	①小学校5年生の体力・運動能力調査平均点(全国体力・運動能力、運動習慣等調査)	①点	① 54.7	① 54.1	① 58.0	<b>A</b> 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の平均点は、小学校5年生、中学校2年生とも、全国平均(小5:53.3点、中2:44.2点)を上回っている。 「肥満度が標準である」児童生徒の割合については、中学校で改善傾向にある。 食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけるとともに、児童生徒の発達段階に応じた体力づくりを行い、基礎体力、運動能力の向上を図る。
			②中学校2年生の体力・運動能力調査平均点(同上)	②点	② 46.6	② 47.8	② 50.0	
			③定期健康診断の肥満度が標準である児童の割合(健康診断結果集計)	③%	③ 84.6	③ 84.3	③ 89.0	
			④定期健康診断の肥満度が標準である生徒の割合(同上)	④%	④ 84.2	④ 85.4	④ 87.0	



事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	R3実績	R4実績	R7目標		
1-3-1 小中学校体育文化活動大会出場費補助事業	県大会以上の体育及び文化大会に出場する小中学校の児童生徒の保護者	経済的負担が軽減される。	小中学校の児童生徒に知識技能の向上の機会を与え、体育活動及び文化活動の充実と振興を図るため、体育及び文化大会への出場に要する経費に対し、予算の範囲内で補助する。  ※R4 小中学校7校に補助金交付	補助対象経費(総額)に対する補助率	%	57.0	56.6	57.0	<b>B</b> 令和2、3年度に比べ、各校の出場する大会数が増加している。体育文化活動の充実により、児童生徒の心身の健全育成が図られている。	<b>○</b> 適正に事業が進められており、取組を継続する。
1-3-2 児童生徒各種健康診断事業	児童生徒	心身ともに健康で学校生活を送ることができる。	児童生徒の各種健康診断(内科・眼科・耳鼻科・歯科・尿検査・心電図検査・結核健診・健康管理健診)を実施する。	①有所見者数(延べ数)	①人	① 1,343	① 1,240	① 1,156	<b>B</b> 前年度に比較し、有所見者は減少しているが、有所見者のうち通院している割合は3%減少している。	<b>○</b> 引き続き、児童生徒の心身の健康増進を図るため、健康診断事業を実施し、有所見者に対する事後指導と受診勧奨を行う。

基本事業4 教育環境の充実

基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	R3実績	R4実績	R7目標	
1-4 教育環境の充実	児童生徒 教職員	安全・安心で快適な環境で学ぶことができる。	①普通教室の大型掲示装置整備率  ②適正規模・適正配置基本計画に基づき統合した小中学校数	①%  ②校	① 69.7  ② 6	① 100  ② 6	① 100.0  ② 10	<b>B</b> GIGAスクール構想に基づく学校のICT環境については、1人1台端末の効果的な活用やデジタル教材の普及を見据え、電子黒板を整備した。 学校統合については、大船渡市立小・中学校適正規模適正配置基本計画に基づき、大船渡中学校と末崎中学校の統合について、地域説明会及び保護者意見交換会等を実施し、令和5年度に協議を再開する方向性を定めた。 児童生徒数の推移を見極めながら、望ましい教育環境の構築を図る。



事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	R3実績	R4実績	R7目標		
1-4-1 教育用コンピュータ整備事業	小中学校、児童・生徒、教職員	コンピュータやインターネットを授業で使える。	コンピュータ教室のほか、普通教室、特別教室等校内のどこからでも情報通信ネットワーク(インターネット)に接続できる校内でのネットワークを整備する。専用ソフトの導入により、校内のどこからでも情報掲示、確認等が容易にできるよう整備する。  ※R4 教育用コンピュータを628台リース	①校内LANが整備された学校の割合  ②教育用コンピュータシステム賃借料  ③タブレット端末等保守管理料	①%  ②千円  ③千円	① 100.0  ② 93,059  ③ 7,156	① 100.0  ② 62,934  ③ 5,545	① 100.0  ② 56,000  ③ 5,545	<b>A</b> 情報活用能力の育成及び学習活動の充実を図るため、電子黒板や実物投影機等の整備を行い、学校のICT環境の基盤整備に努めた。	● タブレット端末の導入やプログラミング教育等ICTを活用した授業が推進されることを見据え、計画的な機器更新を進めていく。あわせて、教員のスキル向上を図る。
1-4-2 学校施設整備事業	小中学校(校舎、体育館、プール等) 児童・生徒、教職員	学校施設・設備が安全で快適に利用できる。	学校施設(校舎・体育館・プール等)について、損耗や機能の低下により使用に耐えない状態になった施設等の修繕を行う。  ※R4 学校施設等の修繕、大船渡北小プールサイド改修工事、第一中学校改築工事、第一中学校既存校舎及び屋内運動場解体設計	修繕対応率(修繕件数/修繕要望件数)	%	57.3	45.4	60.0	<b>B</b> 学校運営に必要な修繕等を計画的に実施するとともに、突発的な不具合にも迅速に対応するなど、教育環境の改善に努めている。 学校統合に伴う第一中学校校舎及び屋内運動場の改築工事が終了し、教育施設の最適化が図られた。	○ 市公共施設等総合管理計画や市立小・中学校適正規模・適正配置基本計画等を踏まえ、引き続き施設の老朽化、長寿命化に対応していく必要がある。
1-4-3 スクールバス運行事業	三陸地域、第一中学校区、東朋中学校区の生徒及び赤崎地区の遠距離通学児童	遠距離通学児童・生徒の安全な通学手段が確保される。	全14路線(市所有13台、業者所有1台)の委託業務によるスクールバスの運行と、市所有車両の維持管理を行う。	①充足率(定員数/対象児童生徒数)  ②スクールバス運行時間等に関するクレーム件数	①%  ②件	① 100  ② 2	① 100  ② 2	① 100  ② 0	<b>B</b> スクールバスの運行により、通学の手段が確保されている。 また、市所有バスにデジタルタコグラフによる運行管理システムを導入し、走行時の事故防止に努めている。	○ 適正に事業が進められている。 今後も事故のない安全な運行となるよう委託業者との連携を図っていく。

基本事業5 地域に開かれた魅力ある学校づくりの推進

基本事業名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	R3実績	R4実績	R7目標	
1-5 地域に開かれた魅力ある学校づくりの推進	小中学校	家庭や地域に学校教育活動への参加、協力を促す。	①自分の住む地域が好きだと思っている児童の割合(県学調、児童生徒質問紙調査)	①%	① 90.0	① 94.0	① 95.0	<b>B</b> 前年度に比較して、全ての成果指標で割合、人数は増えているが、学校ボランティアの人数については、目標の7割となっている。学校からの要望も多いため、引き続き人材確保に努めていく。 地域学校協働活動と学校運営協議会と連携を図り、地域課題解決の取組と、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える活動を推進する。
			②自分の住む地域が好きだと思っている生徒の割合(同上)	②%	② 88.0	② 90.0	② 90.0	
			③学校ボランティア(スクールガード、図書、金管指導等)登録者数	③人	③ 41	③ 49	③ 70	

事務事業名	対象	意図	事業内容	成果指標					進捗度とその理由	今後の方向性等
				項目	単位	R3実績	R4実績	R7目標		
1-5-1 地域学校協働本部事業	学校教育を支える地域住民、学校運営協議会	・児童生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるよう支援してもらう。 ・学校教育活動の課題が緩和・解消するよう支援してもらう。	スクールガード配置事業、学校支援事業、運営委員会の開催  ※ R4の配置状況 スクールガード 11校 36人 地域コーディネーター 6校 5人 地域ボランティア 12校 13人  ※ R4から教育振興運動事業を統合	①スクールガード活動時間	①時間	① 6,835	① 6,512	① 7,410	<b>B</b> 地域住民がスクールガードや地域コーディネーター、地域ボランティアとして、地域ぐるみで子どもたちの育成に関わることで、地域のコミュニティ形成・拡充の一助となっている。	<b>●</b> 地域と学校の連携をより深めながら、事業を継続する。 社会全体の教育力の向上に資するよう、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進を図る。
			②地域コーディネーター、地域ボランティア活動時間	②時間	② 1,378	② 2,602	② 5,760			
			③学校運営協議会への消耗品費支出額	③千円	③ 125	③ 80	③ 150			

施策1 総括

施策名	対象	意図	成果指標					進捗度とその理由等
			項目	単位	R3実績	R4実績	R7目標	
1 学校教育の充実	市内小中学校の児童生徒	「知・徳・体」の調和が図られ、人間性豊かに成長する。	①「学校に行くのが楽しい」と答えた児童の割合(全国学力・学習状況調査)	①%	① 83.4	① 85.1	① 90.0	<b>A</b> 児童生徒が「学校に行くのが楽しい」と感じながら通学できるように、引き続き、児童生徒の学力や心の状況を把握し、適切に対応する必要がある。 また、大船渡市小・中学校適正規模・適正配置基本計画に基づき、学校統合を推進し、児童生徒の教育環境の向上を図る。 さらに、少子化に対応するため、学校と地域との連携、協働により、児童生徒の学びを支えるコミュニティ・スクールの取組を推進する。
			②「学校に行くのが楽しい」と答えた生徒の割合(同上)	②%	② 88.6	② 83.5	② 85.0	
施策の方向性(重点項目、課題等)								
・ICT環境の整備と教員の指導力の向上 ・教職員の多忙化解消 ・学習の基礎基本及び情報活用能力の定着 ・教室相談員、スクールカウンセラー等による校内支援体制の構築と家庭、地域、関係機関との連携強化 ・不登校児童生徒への支援の充実 ・教員の復興加配終了後の、各学校に配置される教員数の減少に対応する方策に対する検討 ・発達段階に応じた体力づくりと計画的な体力向上の推進 ・大船渡市小・中学校適正規模・適正配置基本計画の着実な推進 ・コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)と地域協働活動との効果的な連携とボランティア人材の確保								